

4 温室効果ガスの排出の状況

基準年度（令和6年度）の温室効果ガス排出の状況

①エネルギー起源二酸化炭素の排出量		1,118	t-CO <sub>2</sub>
① （温を除く） 二室除 酸効く 化果 炭ガ 素換 排 算 出 量	②非エネルギー起源二酸化炭素		t-CO <sub>2</sub>
	③メタン		t-CO <sub>2</sub>
	④一酸化二窒素		t-CO <sub>2</sub>
	⑤ハイドロフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑥パーフルオロカーボン類		t-CO <sub>2</sub>
	⑦六ふっ化硫黄		t-CO <sub>2</sub>
	⑧三ふっ化窒素		t-CO <sub>2</sub>
	温室効果ガス総排出量（①～⑧合計）		1,118

5 温室効果ガス排出量の抑制に係る目標

（1）温室効果ガス排出量の抑制目標

温室効果ガスの抑制の目標設定方法	原単位排出量
------------------	--------

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度	
			目標排出量	目標削減率
温室効果ガス 総排出量		t-CO <sub>2</sub>	t-CO <sub>2</sub>	%

項目	基準年度 令和6年度 排出量（実績）		目標年度 令和9年度	
			目標排出量	目標削減率
原単位当たりの 排出量	38.04	kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>	37.66	kg-CO <sub>2</sub> / m <sup>2</sup>
			1.0	%

（2）目標設定の考え方

温室効果ガス1年間に0.3%ずつ、3年で1.0%削減する。
-------------------------------

備考1 温室効果ガスの排出の状況のうち、エネルギー起源二酸化炭素を除く温室効果ガスの排出量については、温室効果ガスの種類ごとに3,000トン以上の場合に限り計上してください。  
 備考2 温室効果ガス総排出量とは、エネルギー起源二酸化炭素の排出量と、種類ごとに3,000トン以上の温室効果ガスの排出量の合算をいいます。  
 備考3 原単位当たりの排出量とは、事業活動の特性を的確に示すものとして事業者自らが選択する工場等の床面積、製品の出荷量その他の指標になる単位量当たりの温室効果ガス排出量をいいます。

6 温室効果ガスの排出の抑制等に係る措置

(1) 自らの事業活動に伴い排出される温室効果ガスの抑制に係る措置

取組の区分	具体的な取組の内容	取組の目標
省エネルギー・省資源の行動の実践・冷暖房	<ul style="list-style-type: none"> <li>・冷房 28℃、暖房 18℃を徹底する。</li> <li>・中間期（春、秋）は窓を開けエアコンを停止する。</li> </ul>	生徒・教職員に周知徹底を図り運用する。計画的にGHP空調機更新工事で、従来機よりも省エネ型の空調機に更新。
省エネルギー・省資源の行動の実践・照明、昇降機	<ul style="list-style-type: none"> <li>・蛍光灯照明器具を省エネ型に更新する。</li> <li>・エレベーター・エスカレーターを停止する。</li> </ul>	故障による機器更新時にはLED型照明器具を選定する。点灯時間の多い照明器具を対象として、計画的にLED照明更新工事を行う。
省エネルギー・省資源の行動の実践・OA機器	<ul style="list-style-type: none"> <li>・退室時にはOA機器の電源を切る。</li> </ul>	退室時OA機器の電源を切る。
自動車等運送機関に関する対策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・急発進・急加速を控え、エコドライブを推進する。</li> </ul>	エコドライブを推進しする。

指針第1号様式

(2) 非化石エネルギーへの転換に関する措置

ア 非化石電気に関する目標

指標	目標 (2030年度)
使用電気全体に占める 非化石電気の比率	33.01 %

イ 計画期間における非化石エネルギーの利用

太陽光設備の導入および非化石率の高いエネルギーへの転換を検討予定。

(3) 環境価値 (クレジット等) の活用

(4) その他の地球温暖化対策に係る措置

(5) 「環境保全の日」等に特に推進すべき取組